



発行 真宗大谷派名古屋教区内有志
災害ボランティアネットワーク

2011年3月11日に発生した東日本大震災を機に、被災地の復興と、人と人とのつながりの回復を願う有志によって結成されたネットワークです。本会の活動へのご支援、何卒宜しくお願い申し上げます。

ご支援については、「一如さん（毎月12日）」での募金、もしくは下記口座までお振込みください。

【口座名義】真宗大谷派名古屋教区内有志災害ボランティアネットワーク【ゆうちょ銀行振替口座 口座記号番号】00800-8-174946【支店名】名古屋橋

【ネパール・カトマンズ地震 復興支援活動】



2015年4月25日11時56分、ネパールの首都カトマンズ北西77km付近でマグニチュード7.8の地震が発生し、9,000人ちかくの犠牲者、広範囲にわたる建物の倒壊などネパールに大規模な被害を与えました。

その後の復興は、地域差や貧富の差がそのまま表れているようです。特に復興が進んでいない家族に対して、冬が来るまえに、住環境の整備を少しでも整えることが急務です。

「でらボラ NAGOYA」では、ネパール在住の日本人で、支援を直接困っている家族に届ける活動を行っている堀口友子さんにつながり、サポートさせていただいております。

先日、その堀口さんが一時帰国され、日本の支援者への報告会が開催されました。

【震災！その瞬間、あなたはどう動く？—自己点検（セルフチェック）①—】



先日、東京都が防災ブック『東京防災』を発行し、各家庭に配布されました。わかりやすく、抜け落としてしまいがちな点を教えてくれる良書です。学べる点を、今後少しずつご紹介いたします。

「ネパール・カトマンズ地震 復興支援活動」報告会

今年4月に発生した「ネパール・カトマンズ地震」。被災者への支援を行っておられるネパール在住の堀口友子さんが一時帰国し、名古屋の有志の方々へのお礼と活動の報告と現状をお伝えさせていただきたいとお申し出がありましたので、9月10日、別院境内で報告会を行いました。その時にお聞きした、日本ではあまり報道されないネパールの実態を少しご紹介いたします。

被害は広範囲にわたっていますが、観光資源を持つ地域、都市部、ヘリコプターでの物資輸送が可能な地域の支援が進んでいる一方で、それ以外の地域は忘れ去られたように思えます。政府からは被災者一人あたり約1万円弱の支援金が支払われることになっていますが、手続きが必要なこと、識字率の低さ（20%）から、支援が行き届いていないのが実情です。

さらに、これまで支援物資として外国から届けられたテントは、日照りと降雨の繰り返しで劣化が進み、冬季を迎えるにあたって不安が大きくなっています。復興に必要な資材を手に入れて復興を進めようとする富裕層の間で競争が進み、資材の不足と高騰を招き、貧困層はさらに復興が遅れてしまっているのです。

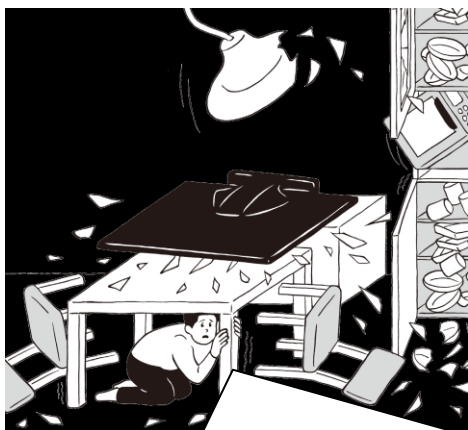
そこで、復興が進んでいないところに物資を届ける活動をしていて、特に住居（ドーム型仮設）の建設に皆さんからの支援金を利用しています（現在まで29棟の建設）。もっとスピーディーに進められたらいいのですが、政府との折衝に時間がかかりすぎているのです。

住居の支給順位については、村の人々に話し合っていて決めています。被害が重く、経済的にも苦しくて未来が見通せない家族から優先的に引き渡しています。

さらに、学校などの教育機関の復興が早急に行われなければならないと強く思っています。文房具や校舎、教育環境を整え、これからのネパールを背負う子どもたちが育つことが非常に重要です。それを政府だけに押し付けず、願いをもって、ほんの少しでも行動していきたいです。

その瞬間、あなたはどう動く？－自己点検（セルフチェック）①－

グラっときたら！まず、身の安全を確保！



トイレで閉じ込められて危険も。揺れを感じたら、ドアを開けておきましょう。



裸でいる浴室はケガをしやすい場所！鏡や電球などのガラス類の飛散から身体を守るため、洗面器などを頭にかぶり、すぐに浴室から出て安全な場所に移動します。

リビング・キッチンで気をつけること！それは、家具や家電などの下敷きになることと、ガラスの飛散です。物が落ちてこない、倒れてこない、移動しない場所に隠れます。揺れが収まったら、ケガをしないように底の厚いスリッパで移動、火の始末を確認。